

進学部門アンケート報告

令和4年度神奈川県立高等学校進路指導協議会
調査研究部会・進学部門

新羽高校 能美 悟

本調査について

4年制大学について

短期大学について

指定校推薦について

総合型選抜入試(AO入試)について

大学入学共通テストについて

専門学校について

校内進路ガイダンスについて

日頃感じている問題点

コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

本調査で取り上げて欲しいテーマ

本調査について

4 本調査について

調査の目的

本アンケート調査は今年度で33回目を数える。
これまで現場の生の声を進路指導に生かしたいと行ってきた。
今年度は神奈川県内の県立高校138校から回答を得て、
分析を行った。

原則として昨年までの調査項目を踏襲し、経年比較することにより、
進路データの変化を見つけ、その分析を行った。

5 本調査について

調査の方法

例年は、本協議会の地区幹事からなる調査研究部会の調査員が調査を行っているが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のための、緊急事態宣言が発令され、臨時休校などもあったために、調査員の会合を十分に開くことができなかった。

そのため、本協議会の常任理事がWEBアンケートで調査を行った。

6 本調査について

アンケート回答数

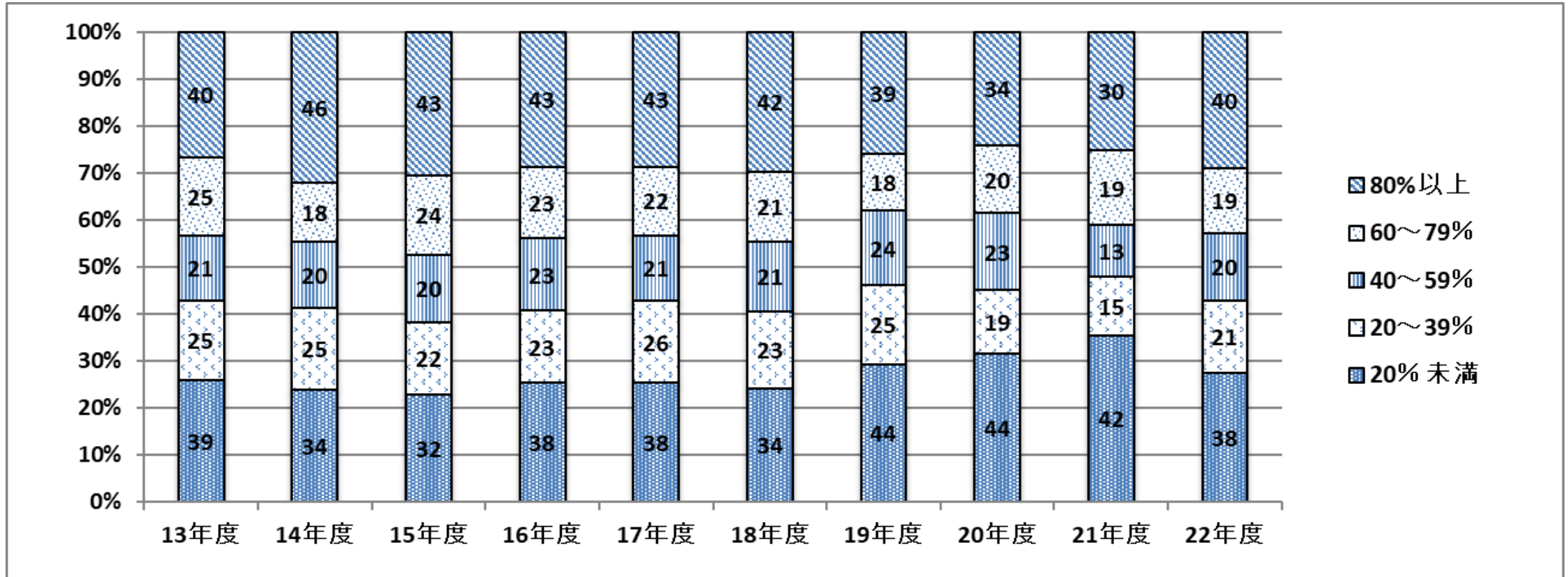
(単位)校

13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
150	143	141	150	150	141	150	140	119	138

2020年度から、教育現場では、大学入試改革や新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業の対応など、例年経験しない突発的な業務で、非常に多忙な状況でしたが、多くの学校がアンケートにご協力していただき、誠にありがとうございました。

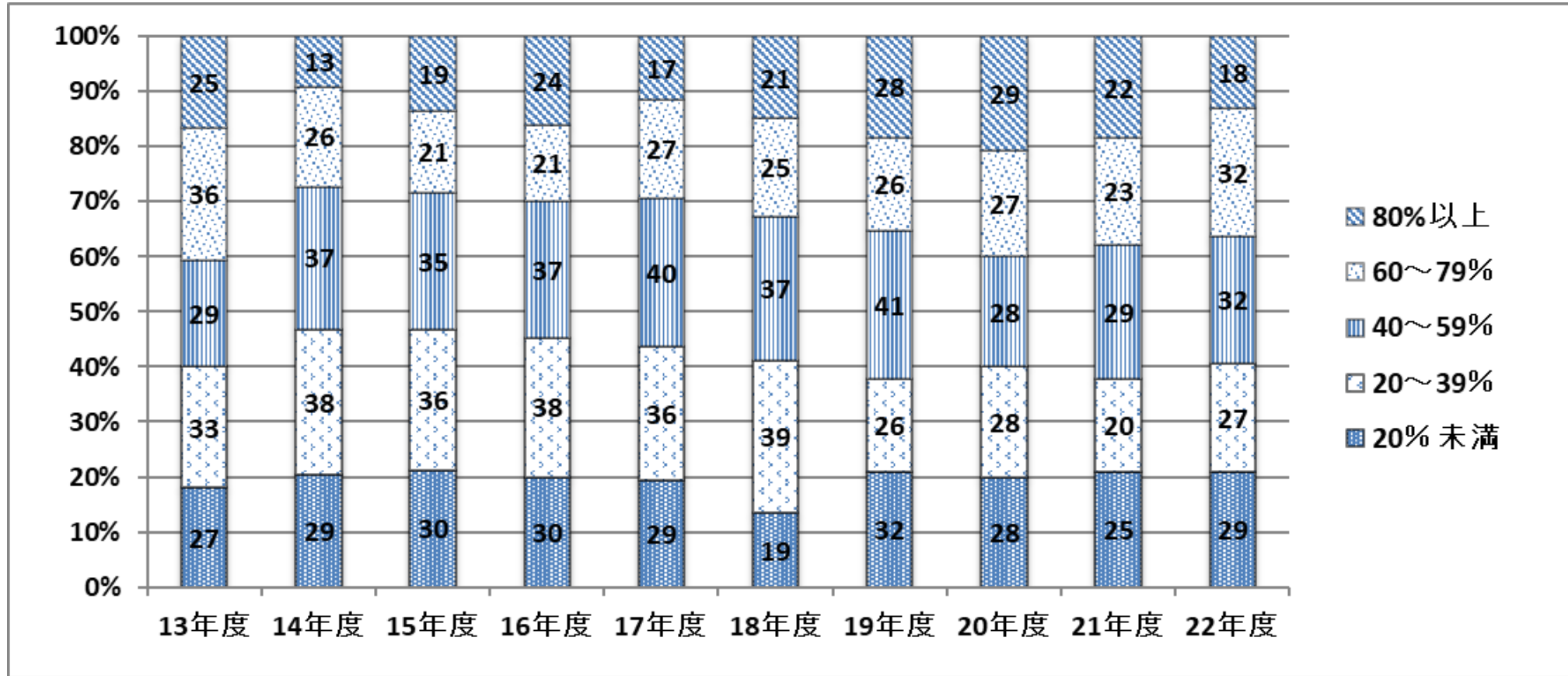
四年制大学について

四年制大学進学希望者の割合



2017年度から、80%以上の生徒が希望する高校が減ってきていたが、今年は4前程度に回復している。それに伴って、20%未満の生徒が希望する高校が減ってきている。私立大学入学定員厳格化の緩和が影響してきているのではないか？

四年制大学進学希望者のうち、学校推薦型(指定校・公募)入試制度利用者の割合

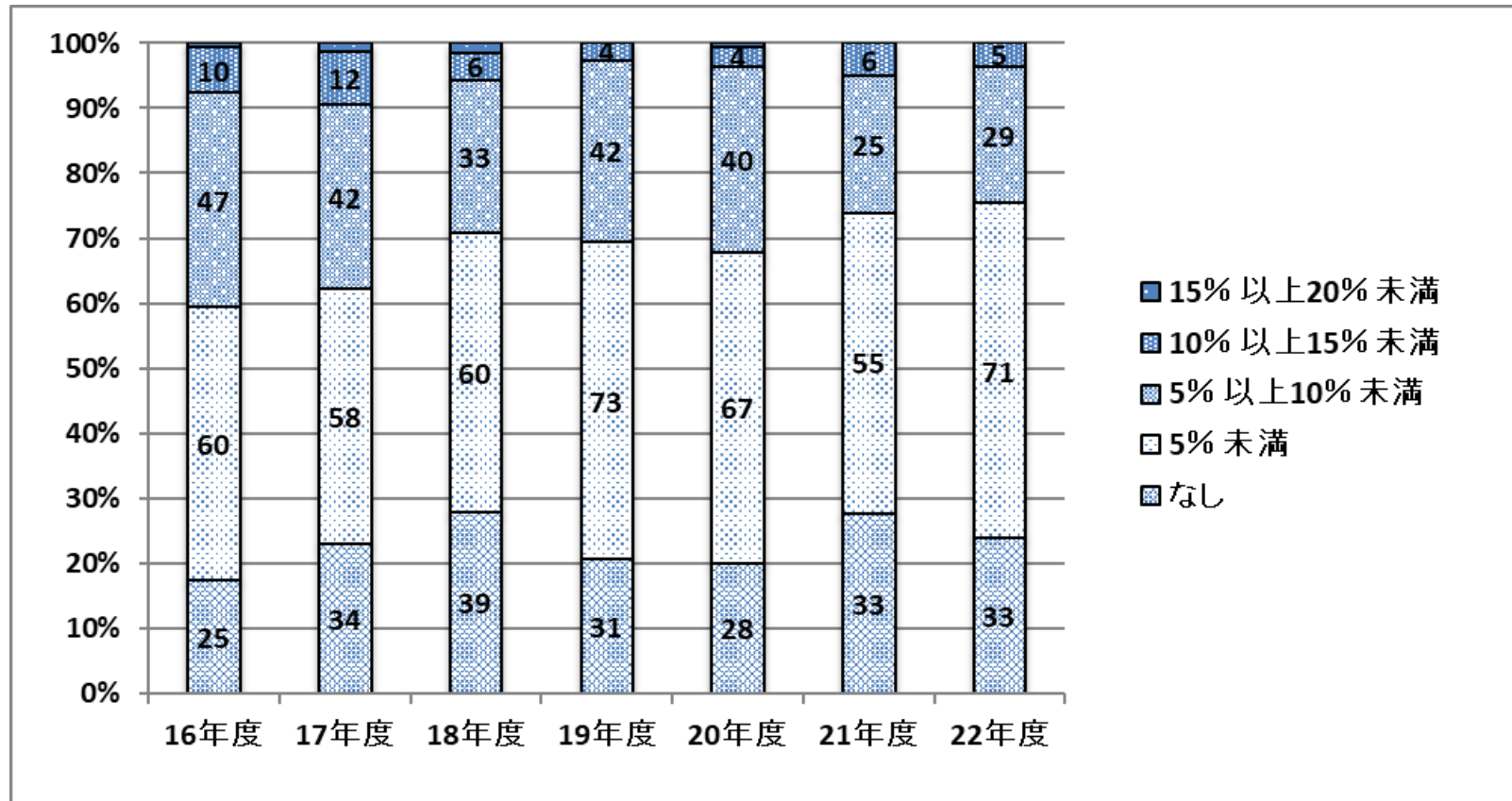


2018年度から、学校推薦型選抜を利用する生徒が80%以上の高校が増えてきていたが、今年は4年前程度に減っており、60~79%、20~39%の高校が増えている。

短期大学について

11 短期大学について

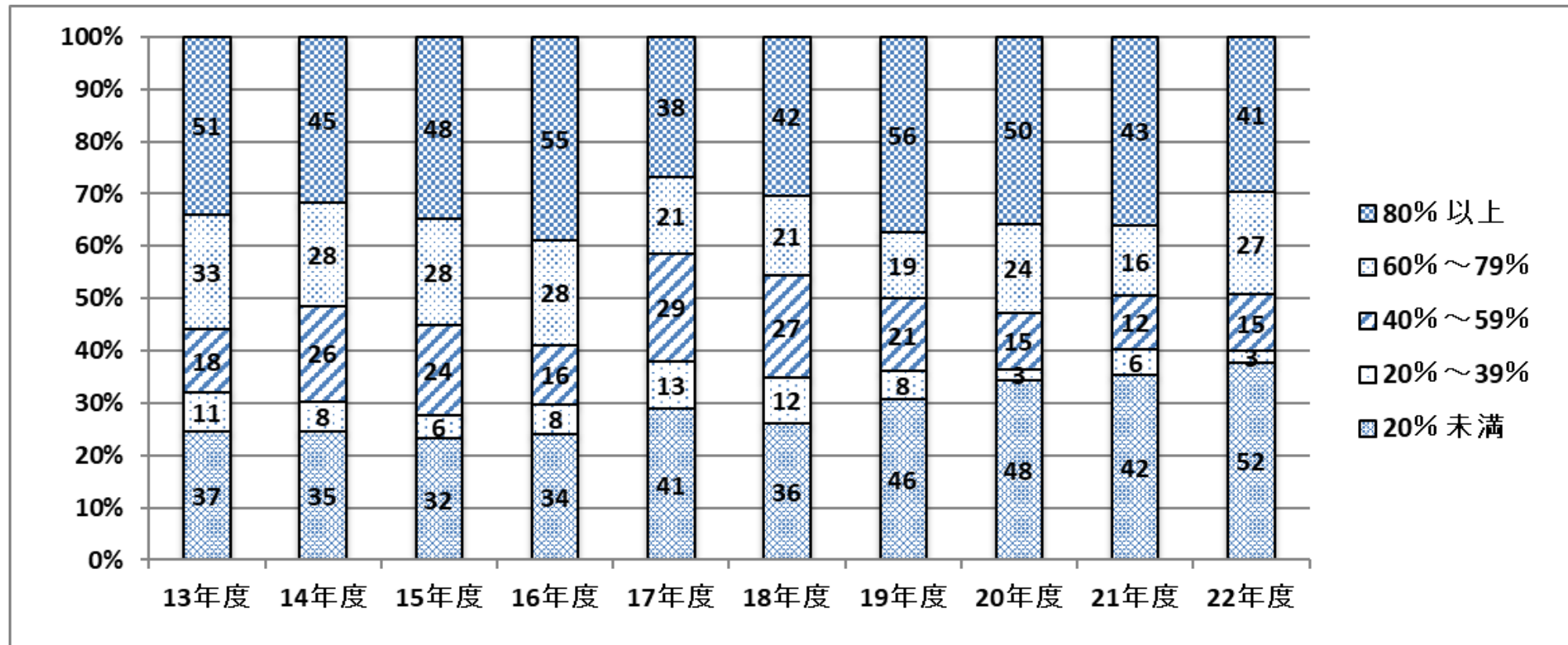
短期大学進学希望者の割合



短大を希望する生徒が0~10%未満の高校が増えてきており、それに伴って、10%以上の生徒が希望する高校が減少してきている。
各高校において、短期大学を希望する生徒の割合が減ってきていると言える。

12 短期大学について

短期大学進学希望者のうち、学校推薦型(指定校・公募)入試制度利用者の割合

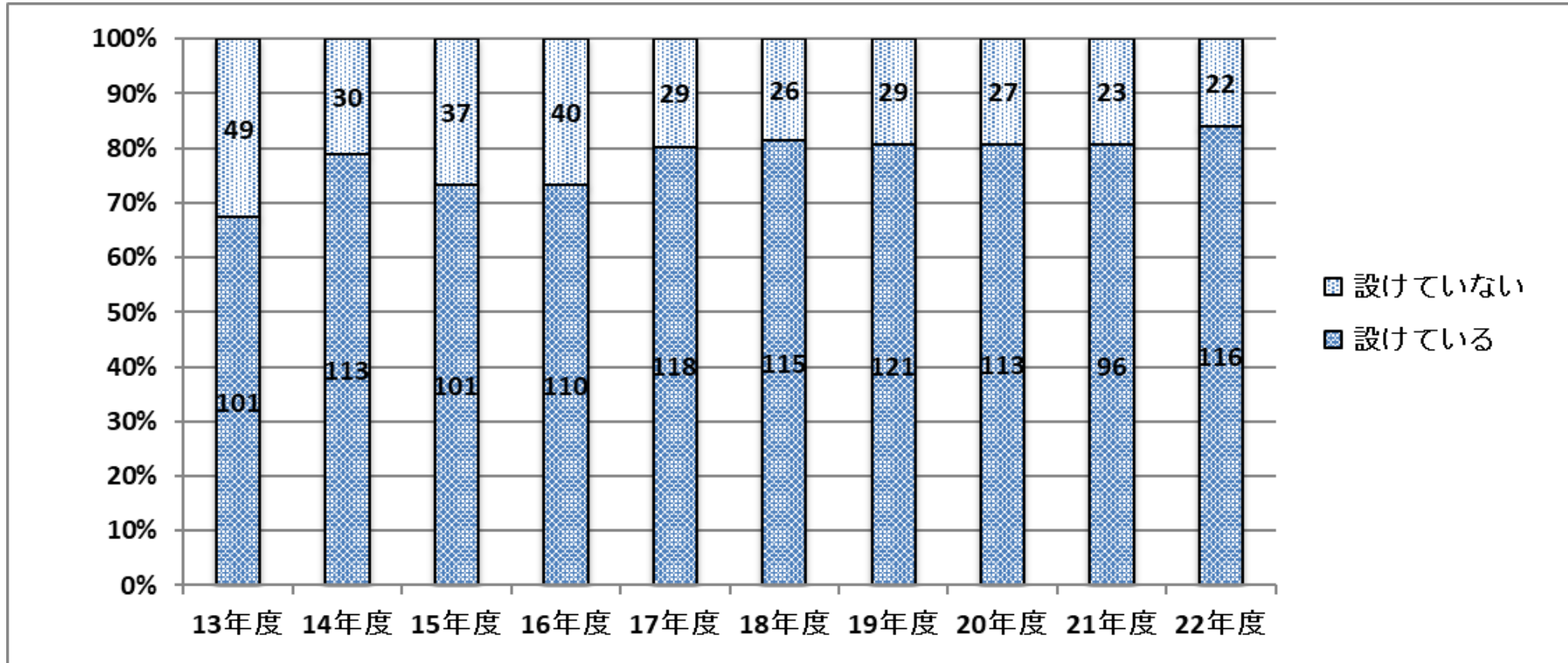


私立大学入学定員厳格化が開始されてから、短期大学へ学校推薦型選抜を利用する生徒が増加する高校と減少する高校が増えてきており、二極化してたが、2022年度では、20%未満の高校が増加して、かつ、80%以上の高校が減っている。短期大学入試では、学校推薦型選抜を利用しない生徒が増えているといえる。

指定校推薦について

14 指定校推薦について

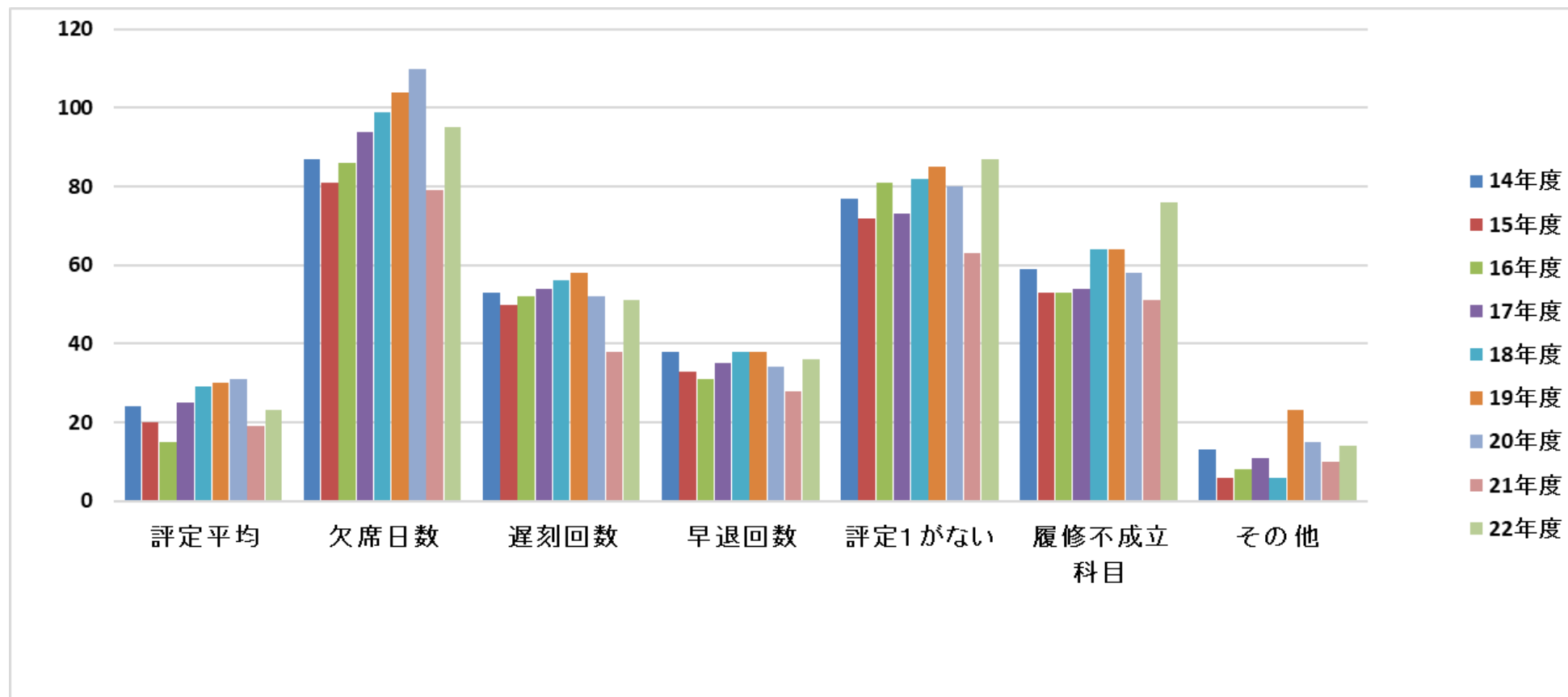
指定校推薦について、大学側からの基準以外に校内基準を設けていますか。



2017年度から、校内基準を設ける高校が増えてきており、現在は、84%以上の高校が校内基準を設けている。

15 指定校推薦について

大学側からの基準以外に設けている校内基準



2017年度から、校内基準を設ける高校が増えてきているが、その項目としては、欠席日数、遅刻回数、評定1がない、履修不成立が増えていた。ところが2020年度から、各項目で減少傾向があり、これはコロナ禍で「臨時休業」や「校長の認める出席しなくても良い日」で欠席する生徒が増加したため、各高校で欠席日数、遅刻回数、早退回数などの項目を校内基準から削除したのではないかと推察される。2022年度には、それらの項目も追加されている。

16 指定校推薦について

大学側からの基準以外に設けている校内基準

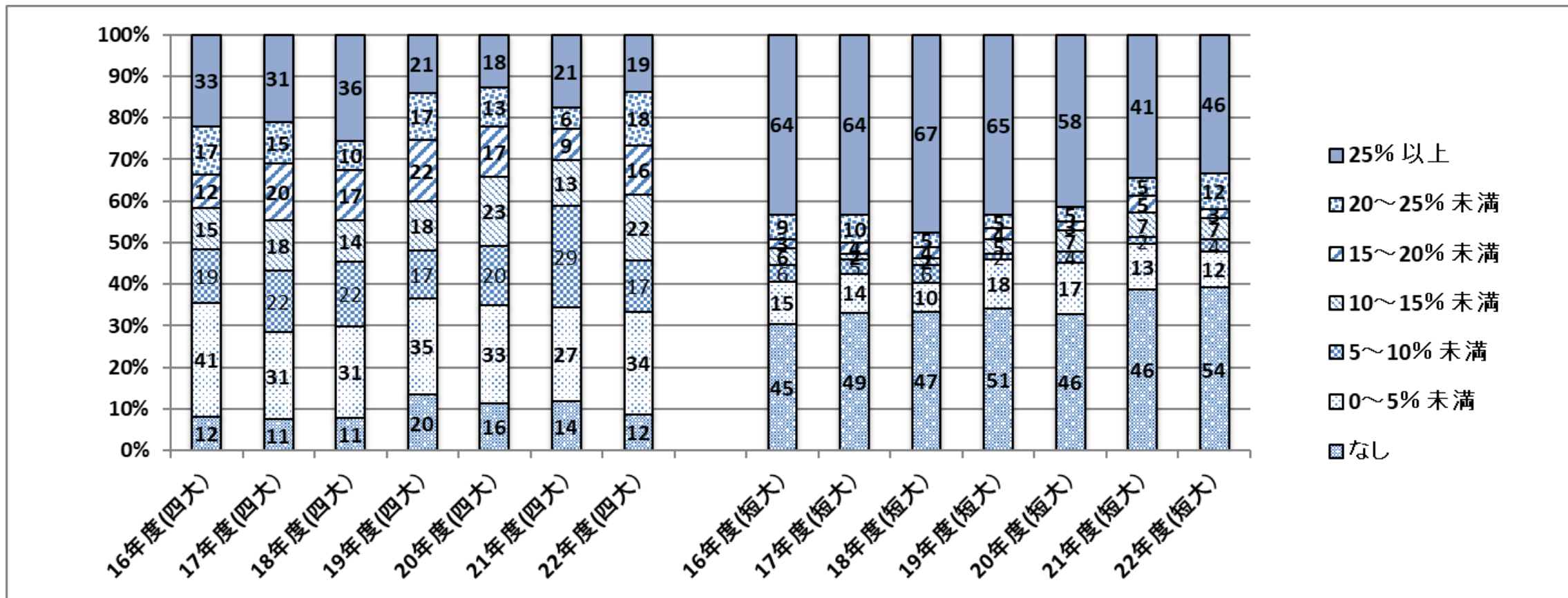
＜その他の具体例＞

- 指定された校内の説明会等に全て出席し、併願できないこと等をきちんと理解していること
 - 三者面談に出席していること
 - オープンキャンパスや体験入学に参加すること
 - 受験希望校レポートを提出すること
 - 学習面だけでなく、生活面も含めて推薦に値する生徒であること
 - (3年次に)生活指導上問題がないこと
 - 諸会費(学年費等)を納入済であること
- など。

総合型選抜入試について

18 総合型選抜入試(AO入試)について

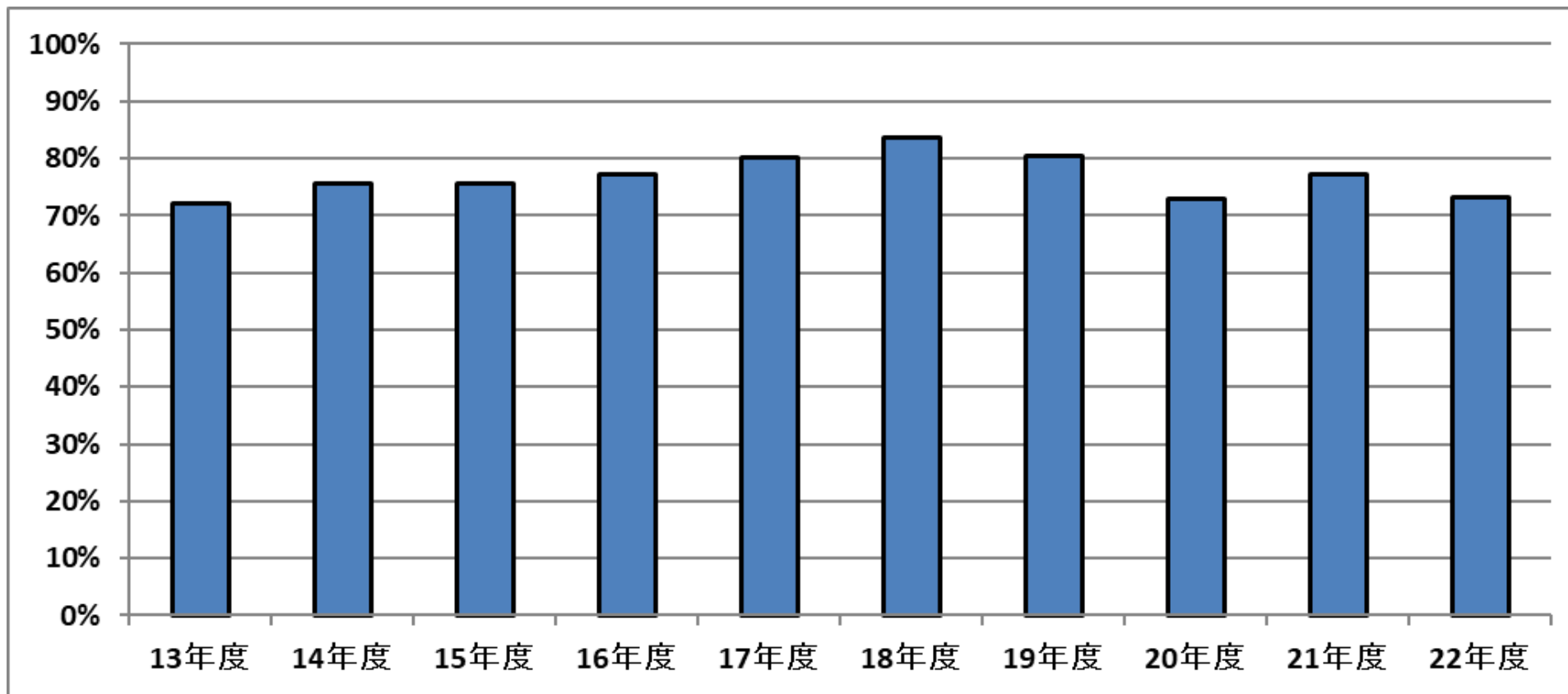
令和4年3月(昨年度)卒業生の四年制大学／短期大学進学者のうち、総合型選抜を利用して入学した割合



四年制大学進学では、4年前から、総合型選抜を利用した生徒が25%の高校が徐々に減っている。短期大学進学では、0%の高校が増加しており、25%以上の高校が減少している。短期大学進学では、総合型選抜を利用する生徒が減少してきていると言える。

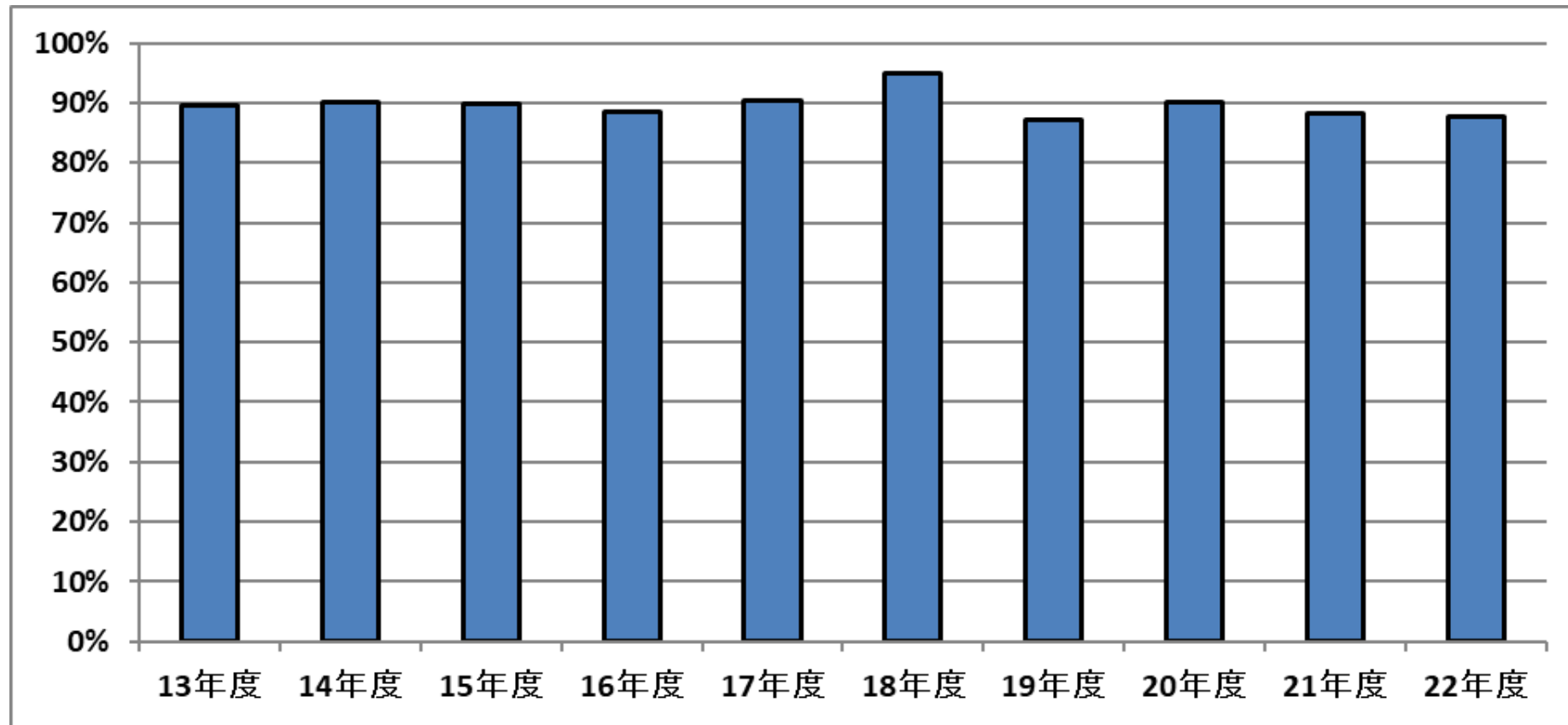
19 総合型選抜入試(AO入試)について

総合型選抜入試に関する指導について、生徒に「出願の届け出」をさせて、組織的に把握している学校の割合。



4年前からは、総合型選抜入試の「出願の届け出」をさせる高校数が減少傾向にあるが70%を超す高校が「出願の届け出」をさせて組織的に把握している。

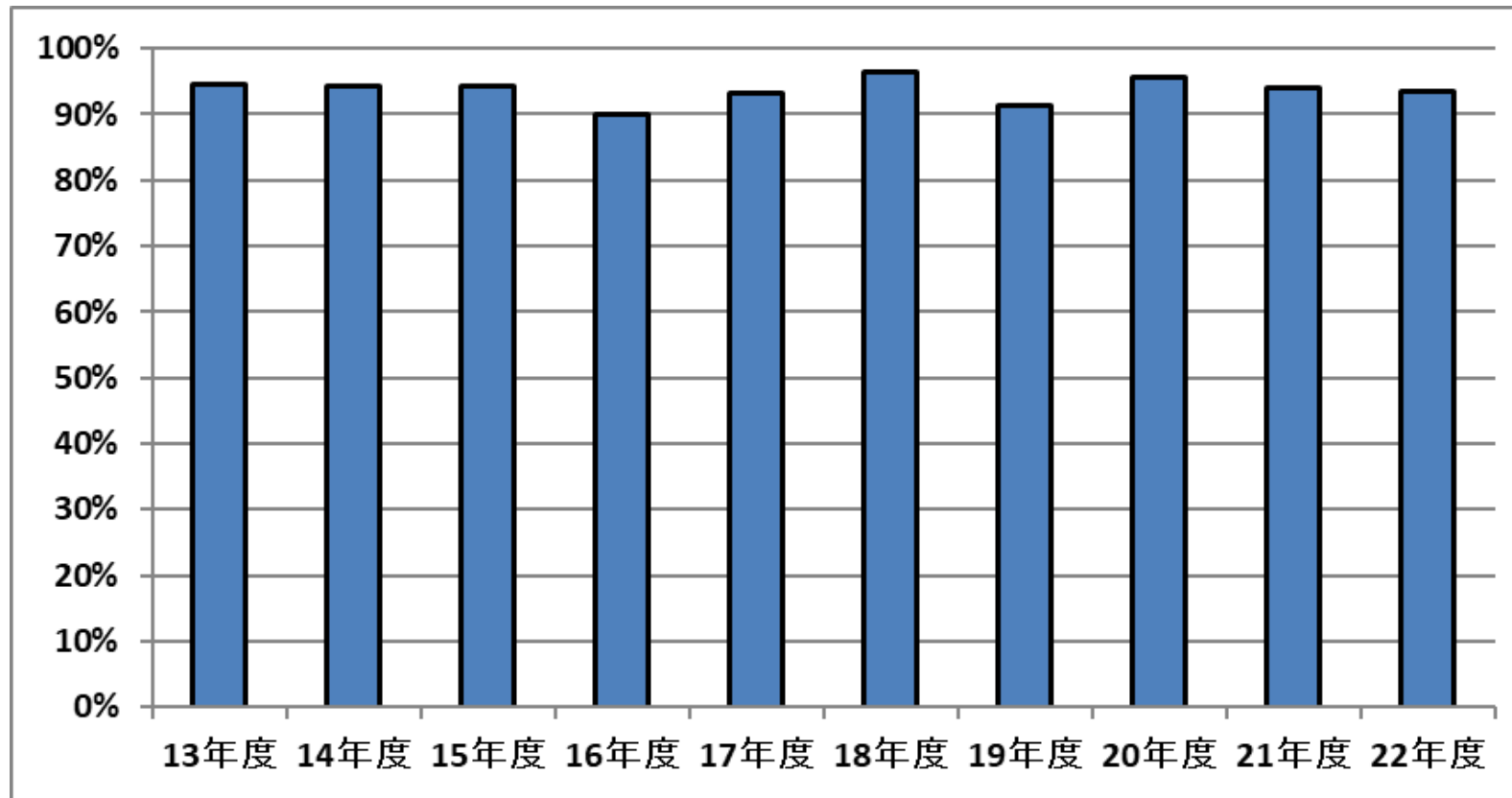
総合型選抜入試に関する指導について、「作文・小論文指導」をしている学校の割合。



90%前後で推移しており、総合型選抜入試でも、手厚く指導されている高校が多いことが分かる。

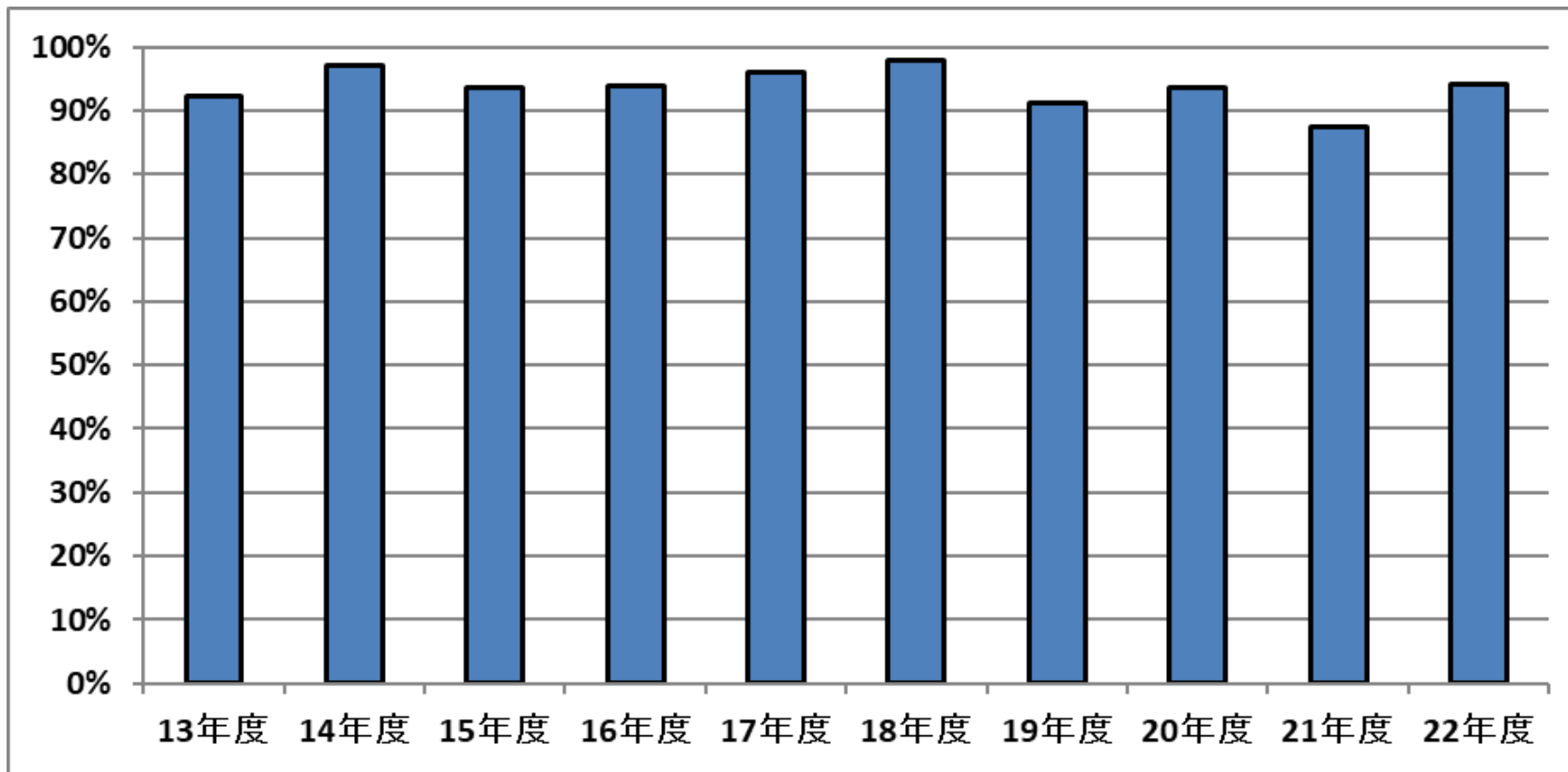
21 総合型選抜入試(AO入試)について

総合型選抜入試に関する指導について、「面接指導」をしている学校の割合。



90%以上で推移しており、総合型選抜入試でも、手厚く指導されている高校が多いことが分かる。

総合型選抜入試に関する指導について、生徒に「受験報告書の提出」をさせている学校の割合。



一昨年度までは、90%以上で推移していたが、昨年度は、統計を取り始めて以来初めて、90%を下回った。大学入試改革で、総合型選抜入試を利用する生徒数が増え、コロナ禍で緊急対応に追われるなど、業務量が増えたことにより、「受験報告書の提出」をさせるまで手が回らなくなっていたのではないかと推察される。2022年度は、再度90%を超えている。

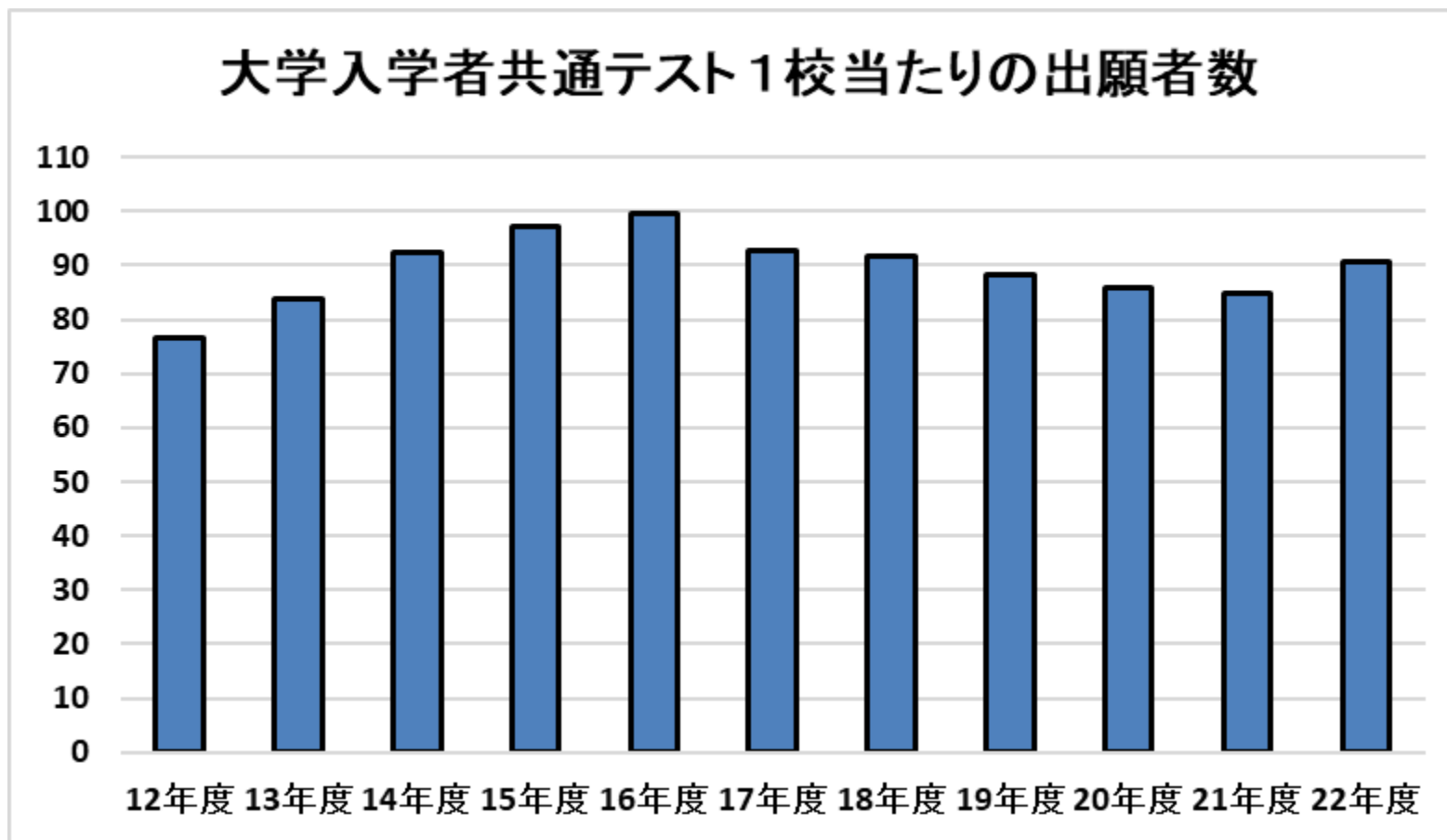
大学入学共通テストについて

24 大学入学共通テスト(センター試験)について

大学入学共通テストの出願者数

年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
回答校数	150	143	141	150	150	141	150	140	119	138
出願人数	12,556	13,183	13,679	14,912	13,913	12,926	13,227	12,036	10,077	12,498
1校当たり人数	84	92	97	99	93	92	88	86	85	91

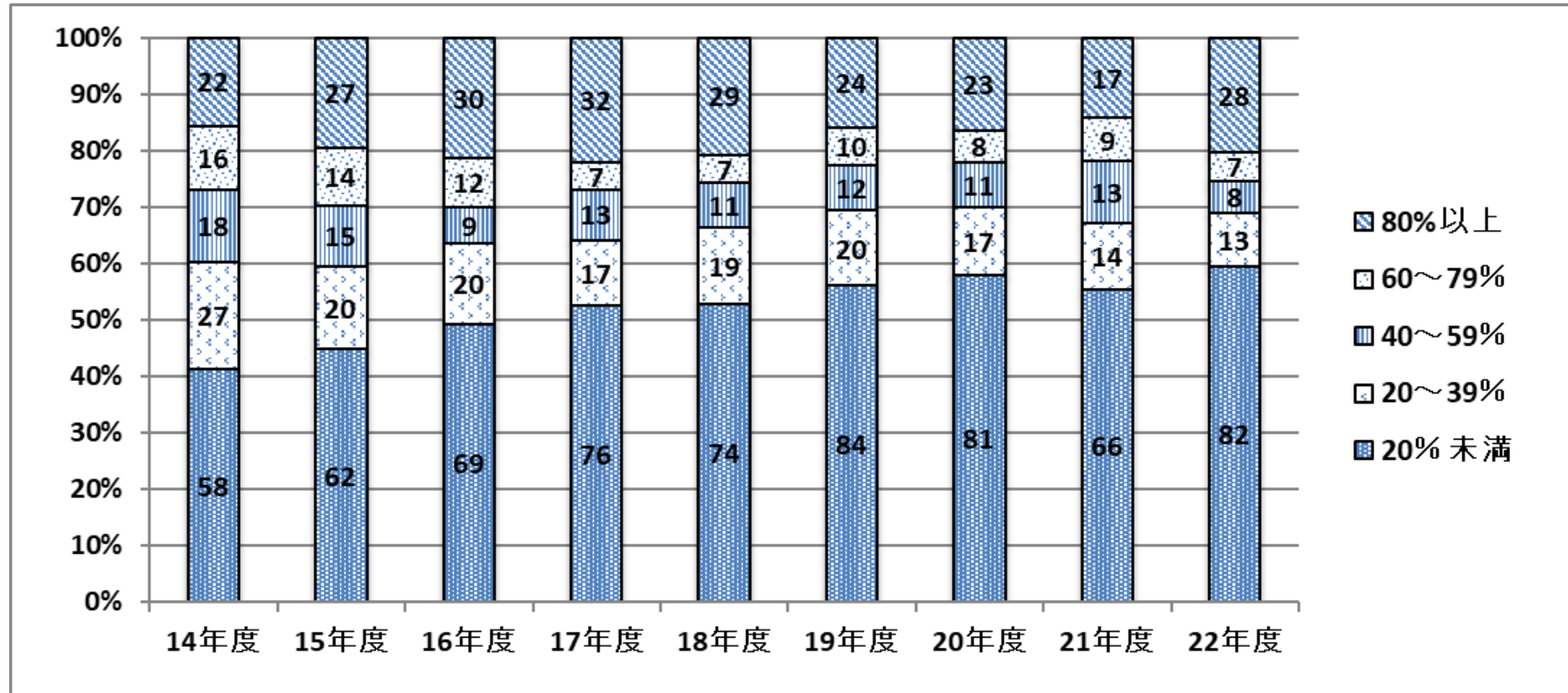
本アンケートへの回答高校数の増減によって、共通テスト出願人数の増減が影響されるので、1校当たりの出願人数を算出した。



2016年度をピークに、1校当たりの共通テストへの出願者数が年々、減少してきていた。
これは、私立大学入学定員の厳格化の影響で、年内入試で進学先を決めたい生徒が増えたことが原因か？
2022年度には、1校当たりの出願者数が増えたのは、私立大学入学定員の厳格化の緩和が影響しているのではないか？
引き続き、調査を進めて、原因を探っていきたい。

26 大学入学共通テスト(センター試験)について

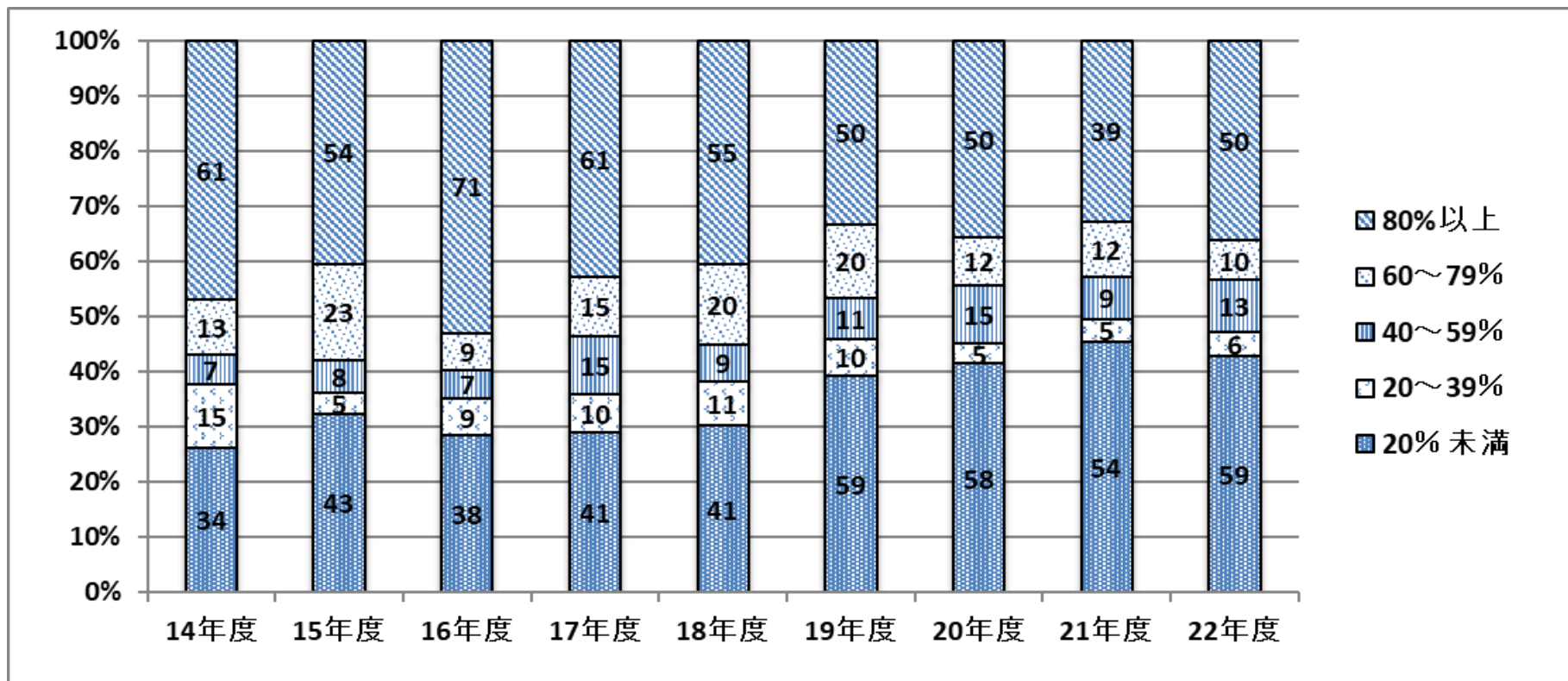
卒業予定者における大学入学共通テストの出願者の割合



2017年度から、出願者割合が20%未満の高校が増えてきている。それに伴って、2021年度までは、80%以上の高校が減少してきていた。しかし、2022年度は、80%以上の高校が増えている。共通テストへ出願する生徒の割合は、減少傾向にあったが、2022年度は、学力が上位の高校で、明らかに増加している。

27 大学入学共通テスト(センター試験)について

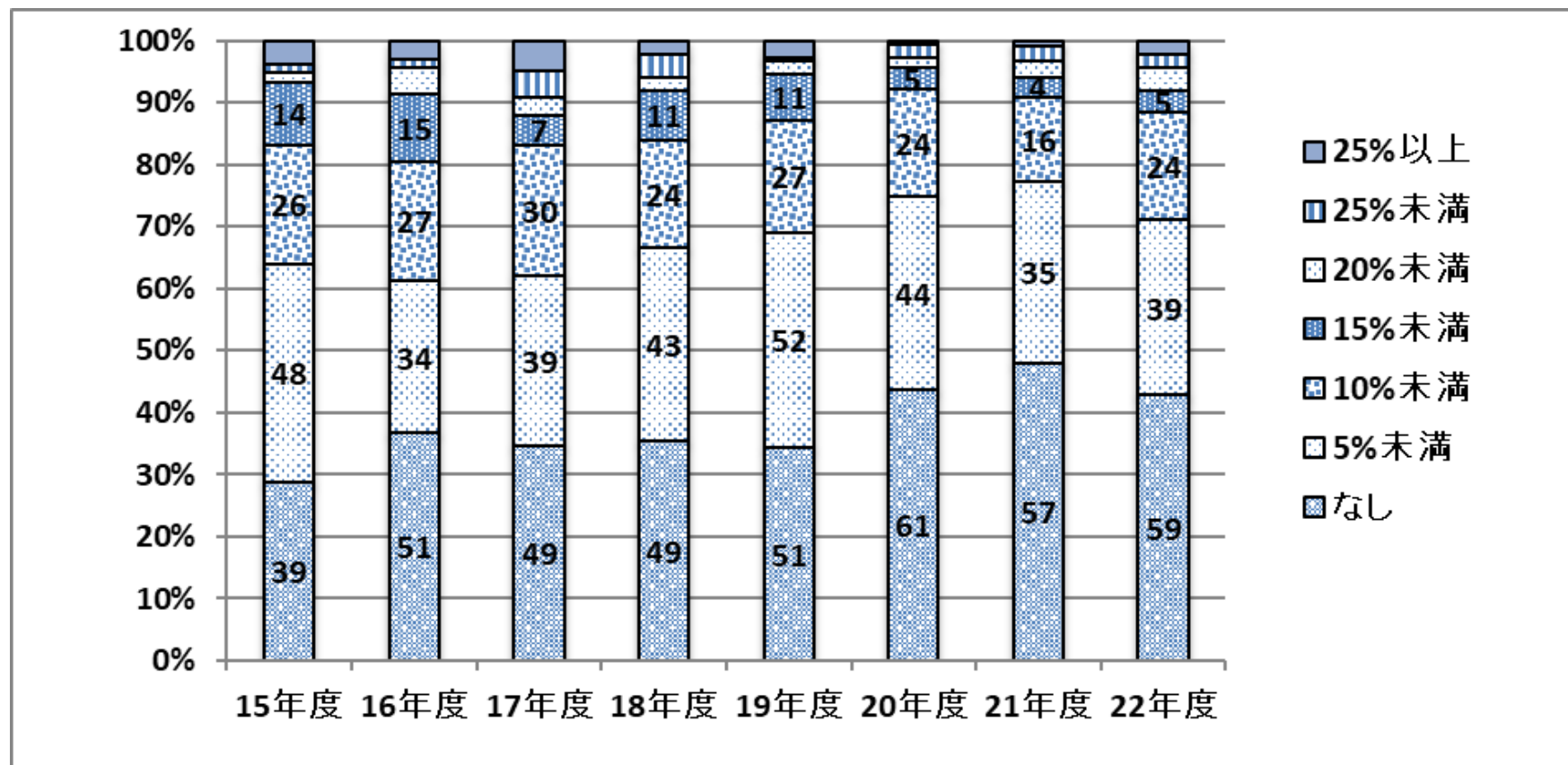
令和4年度(昨年度)入試について、
共通テスト出願者数における共通テスト受験者の割合



2017年度から、受験者割合が20%未満の高校が増えてきている。それに伴って、2021年度までは、80%以上の高校が減少してきていた。しかし、2022年度は、80%以上の高校が増えている。出願したのに受験しない生徒の割合は、増加してきていたが、2022年度は、学力が上位の高校で、共通テスト受験者が増えていると言える。

28 大学入学共通テスト(センター試験)について

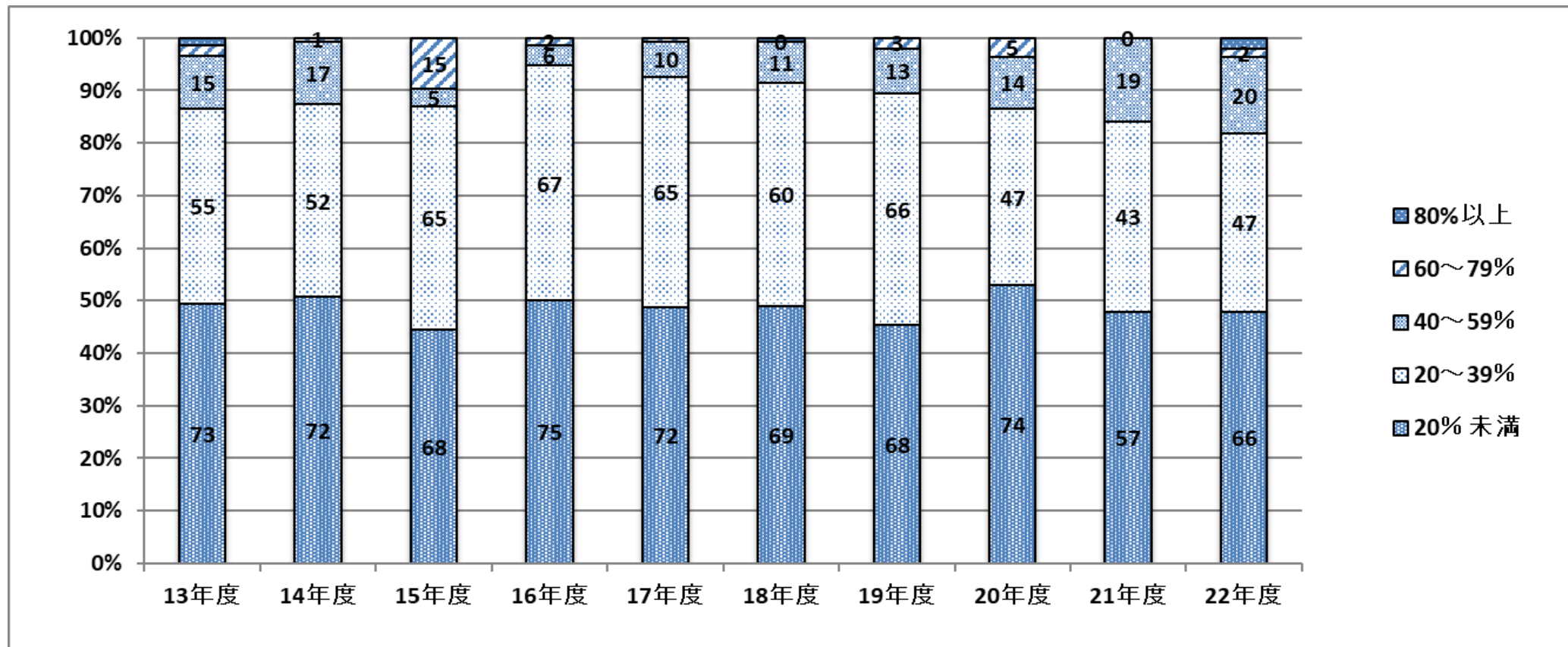
令和4年度(昨年度)入試について、
私立大学入学者のうち、共通テスト利用入学者の割合



私立大学入試において、共通テストを利用する生徒が減少してきていたが、2021年度からは、微増傾向にある。

専門学校について

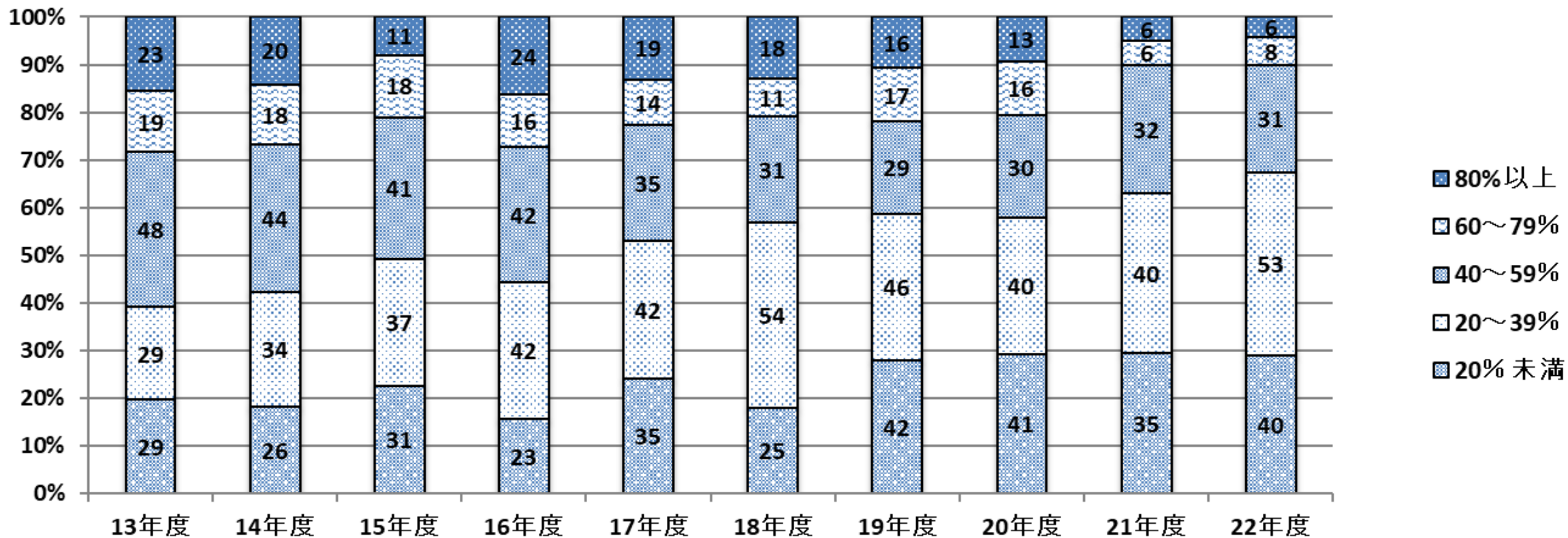
専門学校進学希望者の割合



2017年度から、20%~39%の割合の高校が減少し、それに伴い、40%~59%の割合の高校が増えてきている。2022年度は、80%以上の割合の高校が増えている。

31 専門学校について

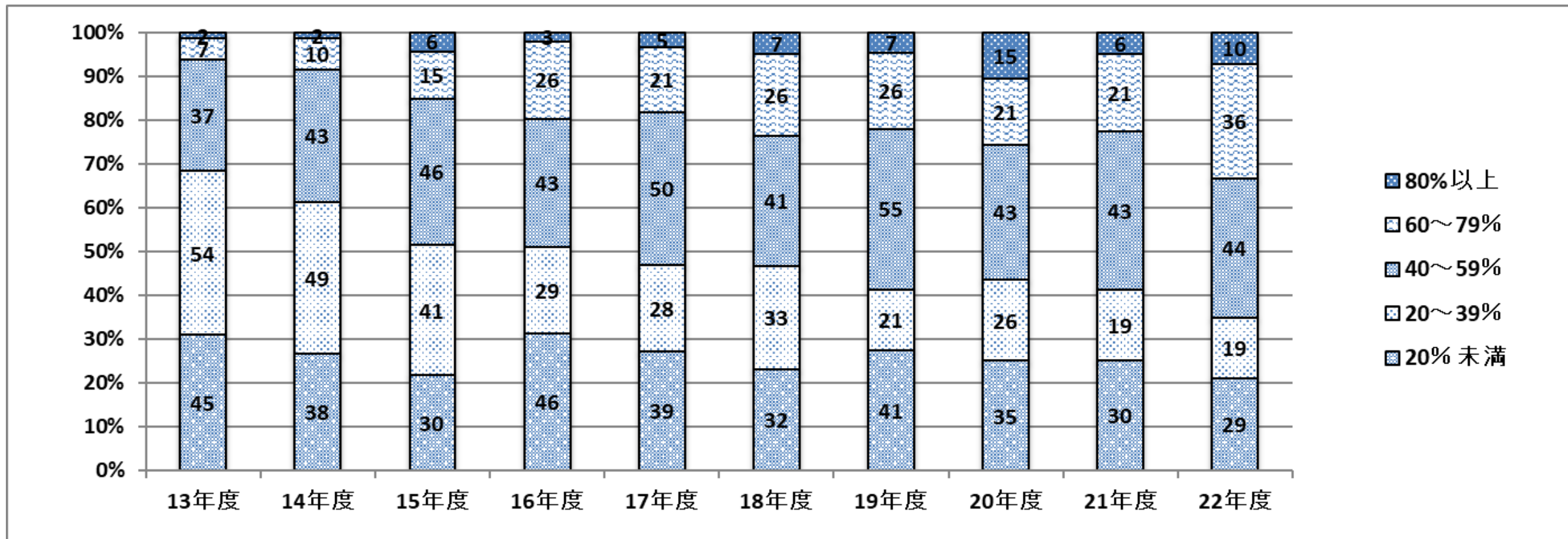
専門学校進学希望者のうち、推薦(指定校・公募制)入試制度利用者の割合



20%未満、0%~39%の割合の高校が増えてきている。それに伴い、40%以上の割合の高校が減少してきている。
専門学校進学では、指定校推薦を利用しない受験が増えてきていると言える。

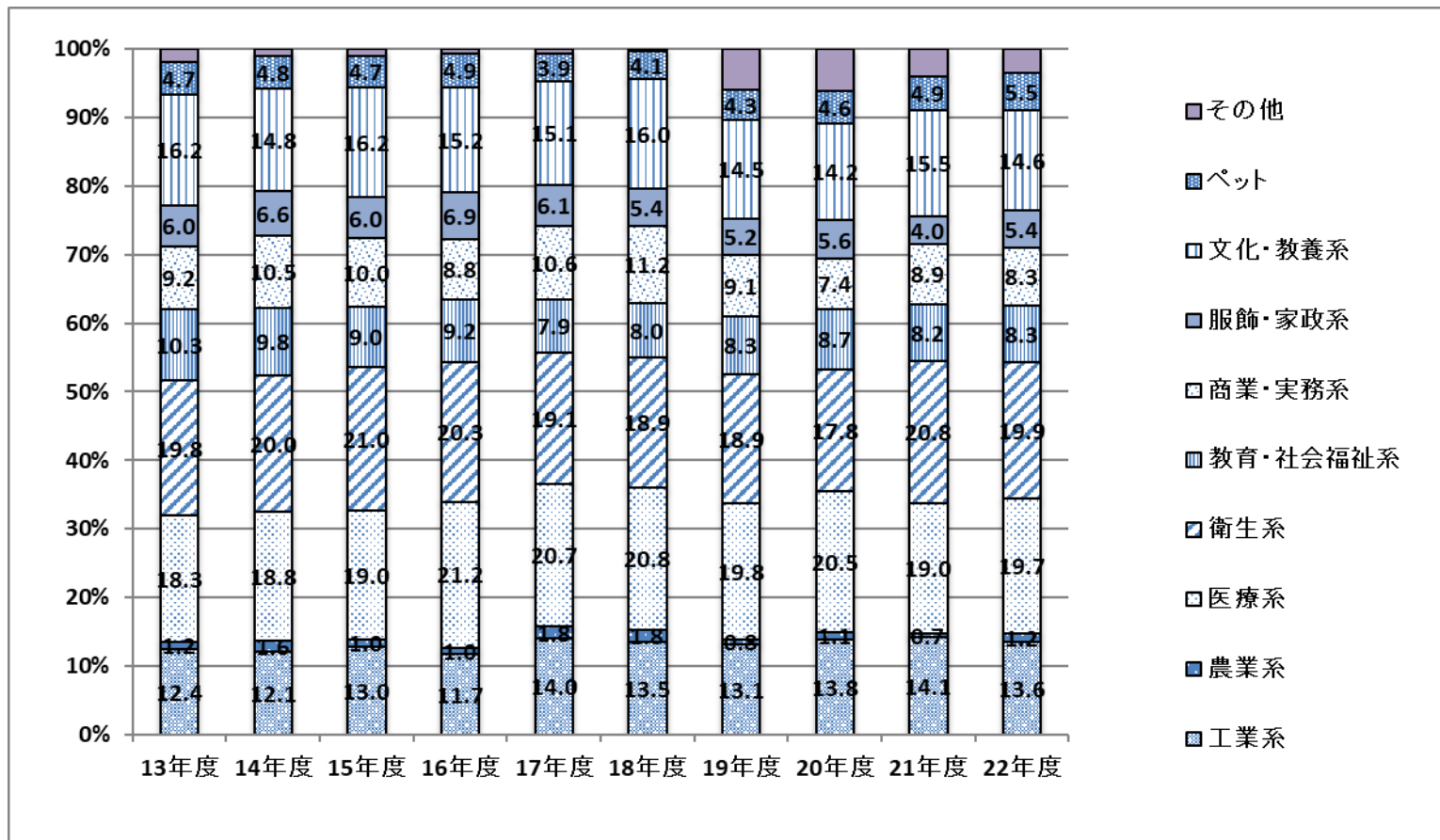
32 専門学校について

専門学校進学希望者のうち、AO入試制度利用者の割合



39%未満の割合の高校が減少してきており、それに伴って、40%以上の割合の高校が増加してきている。特に60%以上の割合の高校の増加が目立つ。指定校推薦よりも早い時期に行われるAO入試で、進路先を決めてしまいたいという生徒の心理が現れている。

専門学校進学希望者のうち、各分野の希望者数

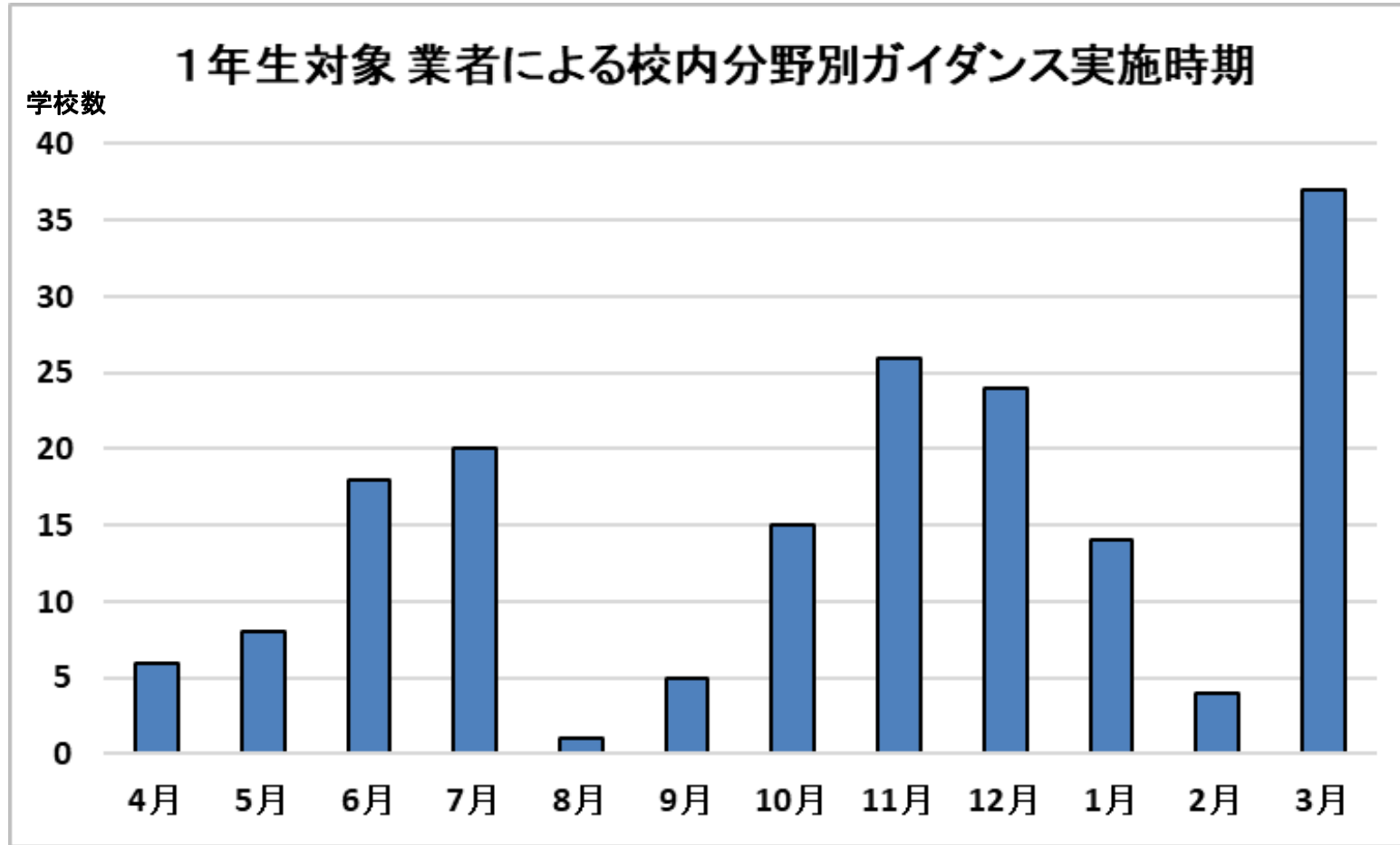


ペット関係が微増し、「その他」の項目が減少してきている。

その他の内訳は、公務員、ブライダルが多い。コロナ禍で2020年の有効求人倍率は、45年ぶりの下げ幅となり、経済が冷え込み、安定した公務員を希望する生徒が増えてきていたが、アフターコロナで、有効求人倍率も回復しつつあり、ブライダル関係の人气が復活し始めている。

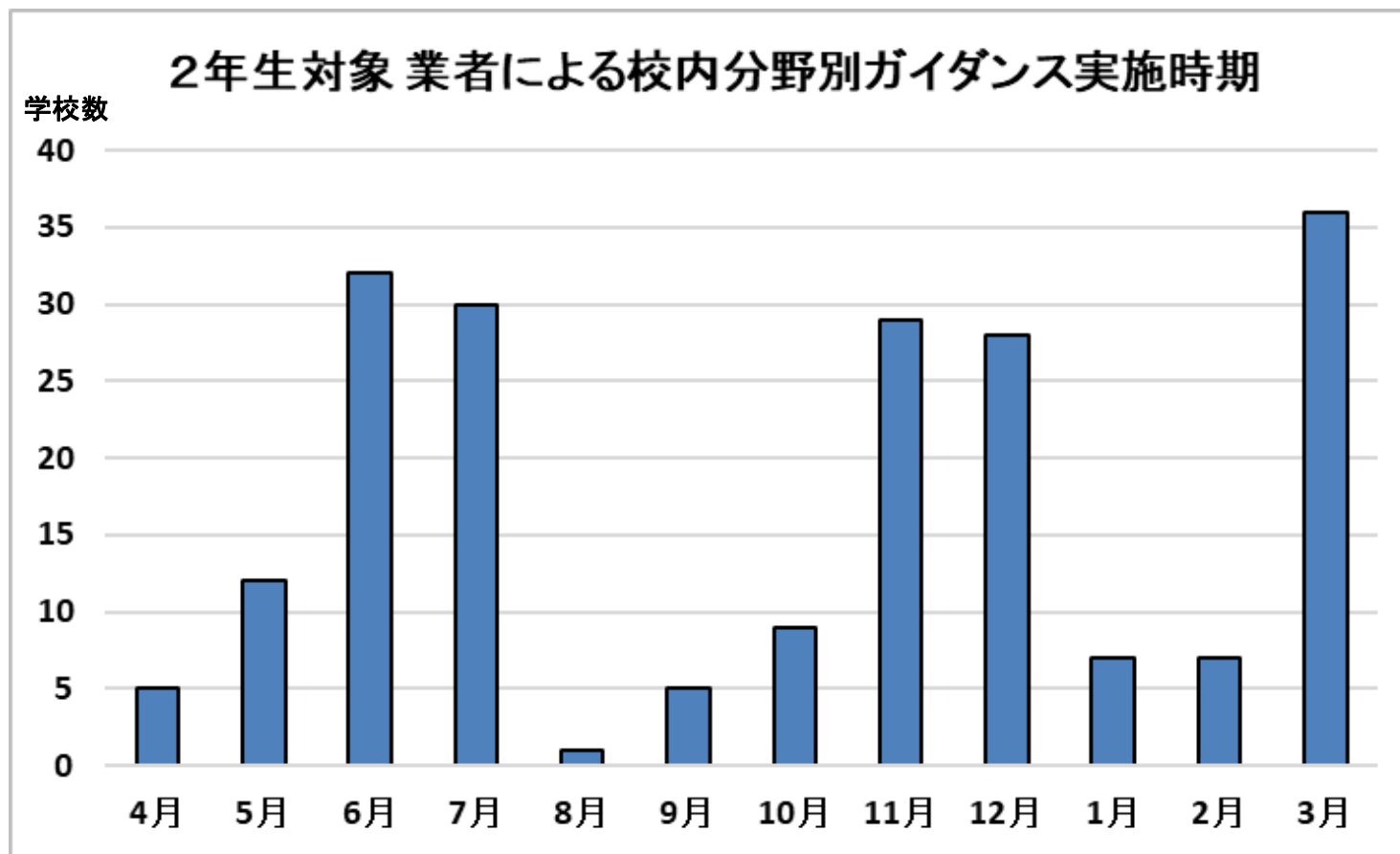
校内進路ガイダンスについて

1年次生に対して、業者による分野別進路説明会を実施している時期



長期休業前の7月・11月～12月・3月にガイダンスを実施している高校が多い。

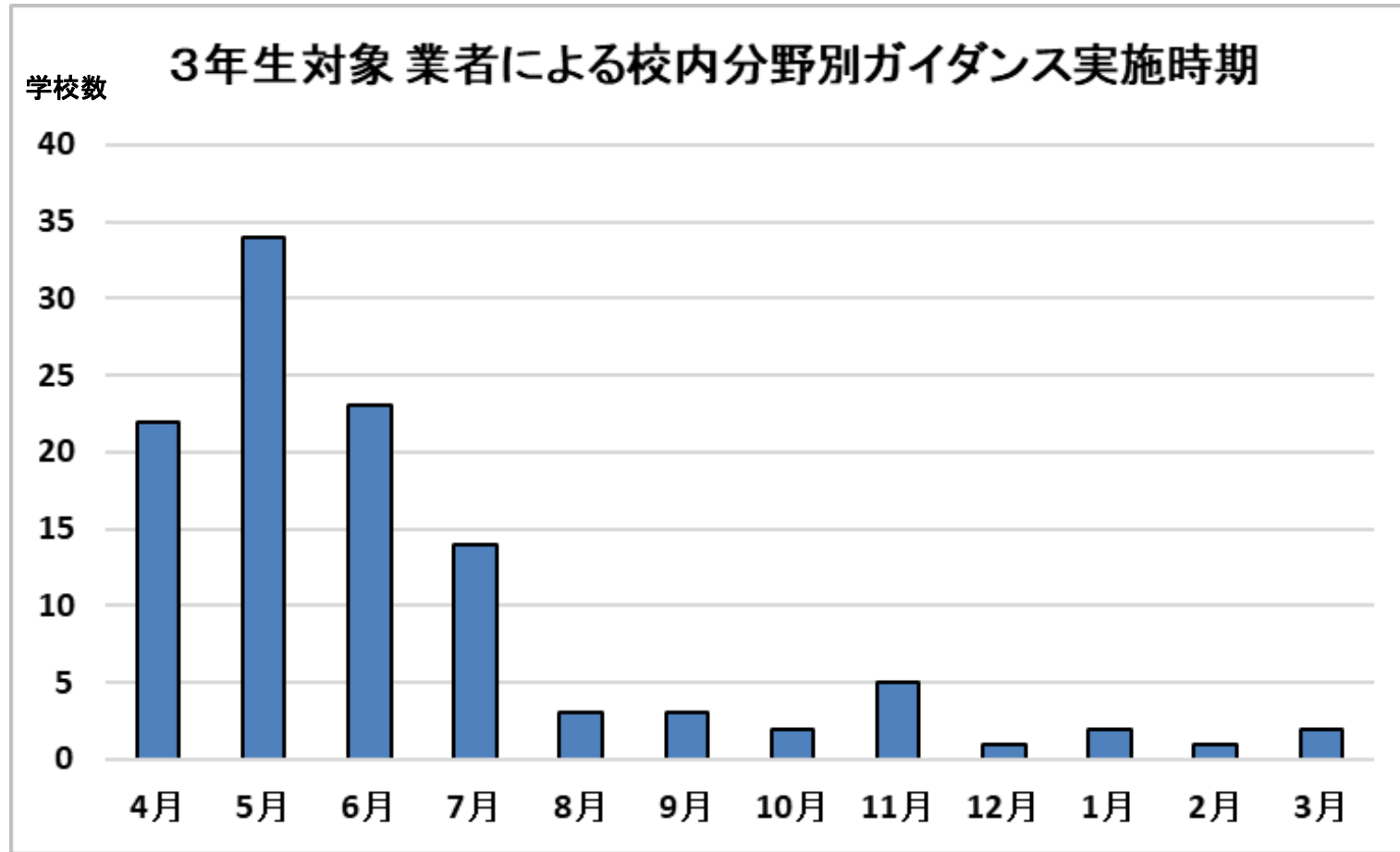
2年次生に対して、業者による分野別進路説明会を実施している時期



長期休業前の7月・11月～12月・3月にガイダンスを実施している高校が多い。
選択科目を決める時期である6月もガイダンスを実施している高校が多い。

37 校内進路ガイダンスについて

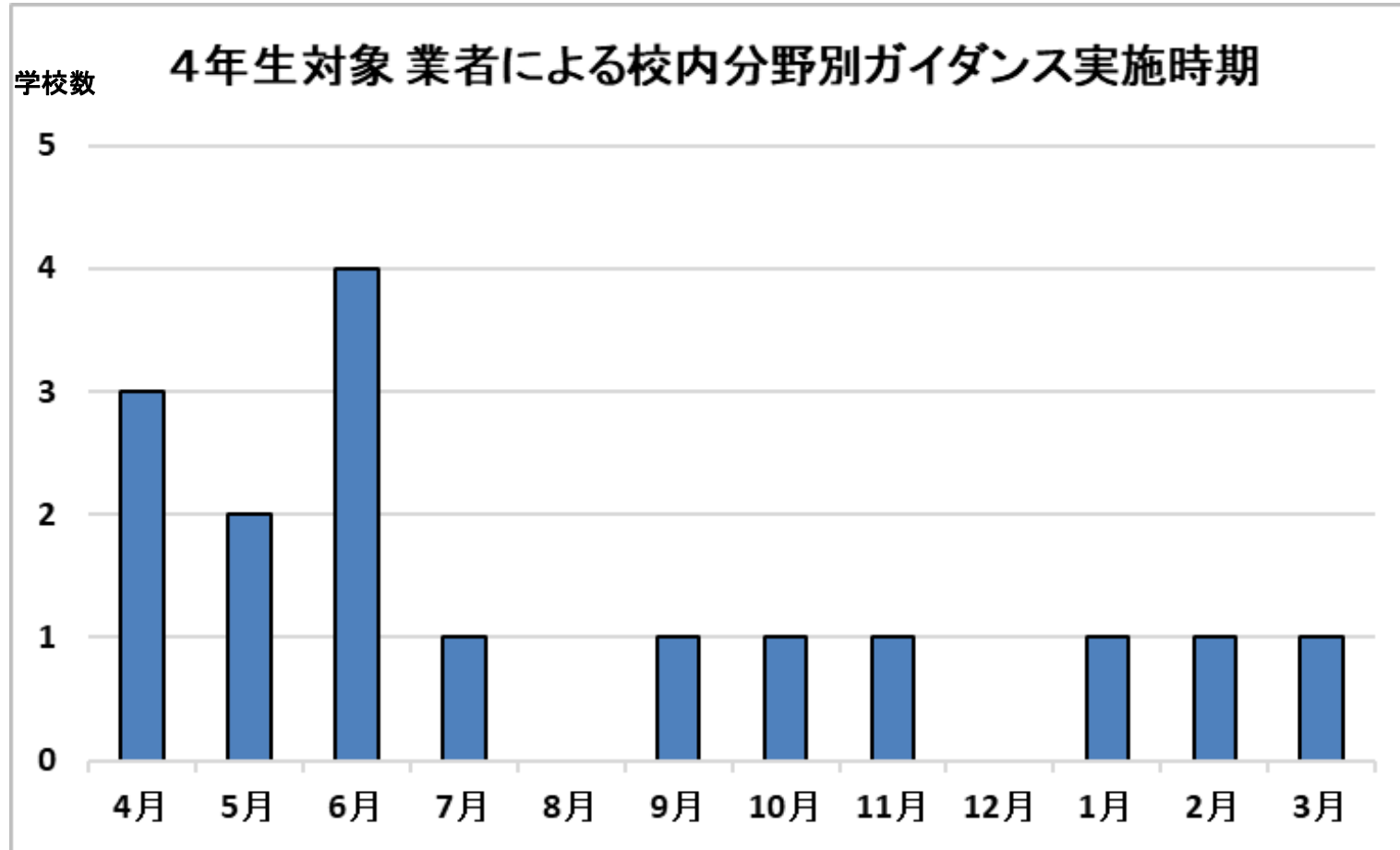
3年次生に対して、業者による分野別進路説明会を実施している時期



6月から総合型選抜が始まるので、5月までにガイダンスを実施する高校が多い。

38 校内進路ガイダンスについて

4年次生に対して、業者による分野別進路説明会を実施している時期



3年生と同様、6月から総合型選抜が始まるので、6月までにガイダンスを実施する高校が多い。

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

＜進学関係＞

- 進路希望別のガイダンス
- 入試制度・入試方式を説明するガイダンス
- 入試方式別ガイダンス
(総合型選抜、学校推薦型選抜、共通テスト、一般入試)
- 分野別・大学別・学部学科別説明会
(医学医学科・看護学ガイダンス、美術系進学ガイダンス、専門学校選び方 など)
- 模試振り返り
- 大学入試動向ガイダンス
- 受験勉強の仕方
- 模擬面接指導、志望理由書、小論文講座
- 面接練習週間を設定し、3年生全員を対象とした面接指導
- 大学の授業に触れるための「大学出張授業」
- 一般入試出願指導

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

＜上級学校訪問, 校外学習＞

- 「大学訪問」、「大学学習会」などの大学との接続企画
- 上級学校見学会
- 大学模擬授業
- キャンパスツアー、進路バスツアー
- 校外研修
- 職業訓練校の校外学習
- 高校独自インターンシップ
- 企業見学
- 合同進路フェスタへの参加
- 合同企業説明会への参加

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<就職関係>

- 年間を通して就職ガイダンス(求人票の見方, 資料の探し方の説明など)
- ハローワークによる就職ガイダンス
(面接指導、就職試験対策、就職内定者指導)
- 職業選択講話
- 学内で企業説明会
- 地元企業を招いての進路ガイダンス
- 県インターンシップガイダンス
- 学校独自のインターンシップ
- 「仕事の学び場」への参加斡旋
- 公務員ガイダンス

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<お金に関すること>

- ファイナンシャルプランナーによるお金講座
- 消費者教育講話、年金の話
- 予約奨学金、教育ローンの話

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<職員対象>

- 教員への進路研修会
- 大手予備校による進路説明会
- 専門学校の状態について、ガイダンス業者を呼び担任向け研修会
- 模擬試験分析会
- 生徒一人ひとりについて「大学出願指導検討会」
- 受験結果報告会

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<保護者対象>

- 指定校推薦説明会 …被推薦者になった後で辞退できないことの説明
- 保護者対象進路ガイダンス
- 大学、専門学校別進路ガイダンス
- 教育ローン・予約奨学金説明会
- ファイナンシャルプランナーによるお金講座
- 大手予備校による進路説明会

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

＜卒業生を招いてのガイダンス＞

- 社会人として活躍している卒業生によるキャリアガイダンス・講演会
- 卒業生による分野別職業講話
- 卒業生による分野別説明会(学部・学科)
- 教育実習生講話(大学の様子や勉強方法)
- 卒業する3年生による合格者講話、懇談会

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<外部講師を招いてのガイダンス>

- ハローワークのスタッフを招いてのガイダンス(マナー講座、面接指導)
- 社会人・企業人による進路講演会
- 地域企業を招いての進路ガイダンス
- 大学職員による進学ガイダンス
- 大学等出張授業
- 大手予備校による進路ガイダンス
- 外部講師による模擬面接・マナー講座

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<職業人インタビュー>

- 職業人を複数人招いて、多展開で職業人インタビュー
- 市町村産業振興課後援の地元職業人インタビュー
- 2、3年次「課題研究」において、上級学校や地域の方への体験授業や取材による調査・研究

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<科目・分野・職業・進路選択>

- 進路と科目選択ガイダンス
- 教員による分野別ガイダンス
- ガイダンス業者による学校別・分野別の説明会
- 職業選択講話

学校独自で実施している進路ガイダンス等の取組み

<その他>

- リーダーシップ研修
- 進路通信の発行
- 放課後進路セミナー
- 各年次の4月に進路目標・進路スケジュールについてのガイダンス
- 看護、医療、職業技術訓練、公務員系の学校についてのガイダンス
- 全職員による一斉面接指導
- 総合型・学校推薦型受験者及び就職希望者一人ひとりにチューターを配置
- 生徒と保護者対象に、それぞれ学年別に進路ガイダンス動画を配信
- 総合的な探究の時間で、「学部・学科研究」をテーマとして探究活動を行う
- 2、3年次「課題研究」において、「上級学校や地域の方への体験授業や取材による調査・研究」
- 進路指導の情報提供を目的に校内限定のWEBサイトを作成

日頃感じている問題点

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<大学入試改革>

- 多様化した受験内容や評価基準への対応に追われている。
- 生徒の進学意識の醸成と複雑化する入試への対応。
- 受験方法の選択肢が多くなり、的確な指導助言をするための下調べの時間がより必要になった。
- 総合型の受験パターンが多すぎて対応に苦慮している。
- 学校推薦型・総合型選抜受験者の小論文指導の人数がとて多いため、国語科の教員に多大な負担をかけている。
- 自身の学力と志望大学がマッチしないことが多く、大学入試の仕組みも分からない生徒もいるため、個々人に対して丁寧に説明、個別指導が必要である。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

＜大学・短大・専門学校の選抜方法の名称の違い／不統一な書式＞

- 指定校推薦に関わる業務が、神経を使う仕事で大変である。推薦基準の書式の統一をしてほしい。
- 推薦業務が煩雑である。書式の不統一等、事故の誘因となっている。
- 大学から送付される指定校推薦の書類の書式が統一されておらず、教員が手続き等を確認しづらい。
- 共通テスト出願について、学校ごとの一括出願ではなく、生徒個人の出願による出願にしていきたい。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<専願・併願可の取り扱い>

- 総合型選抜の「専願」「併願可」の扱いが、大学により異なる場合があり、苦慮している。
(例)「専願」「第1希望」と要項に明記されているのに、実際は辞退可能にしている大学等。
- 総合型選抜は、大学によって専願、合格したら入学を確約、第一志望とするなどの条件がまちまちで、また併願可のところもあり、調査書交付にあたって、学校の方針と本人(保護者)の希望が一致しないことがあり、トラブルになることがある。
大学に問い合わせても回答がはっきりせず、高校はますます困惑している。。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<業務過多>

- 進路形態の多様化による職員の進路指導の共通認識と進路業務が増加している。
- 個々の希望に応じた進路指導をする時間の確保が難しい。
- どの教員も校務が忙しすぎて、進路の情報収集、生徒の個別対応、教員の意識喚起など、時間が足りていない。
- 指定校推薦のWEB出願化が進む中、要項の印刷等、業務が増えている。
- 指定校一覧表の点検、調査書・推薦書の点検等、間違えの許されない仕事が多すぎる。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<情報過多>

- 情報過多である。
- 情報過多であり、職員、生徒が有用で正しい情報を選び取ることが必要である。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

< 専門学校 >

- 6月から内定を出す専門学校へ希望する生徒への指導が大変。
- 学校運営に問題が指摘されている専門学校への進学を希望する生徒への対応。
- 専門学校のAO入試での青田買い減少は相変わらず。高校で指導しているにもかかわらず、いわゆる問題校にひっかかる生徒が後を絶たない。
- 専門学校等のAOエントリーの取り扱いについて、併願のことをどの程度学校から伝えるか。
- 専門学校の指定校推薦において、学校推薦型用推薦書の様式で出願したところ、指定校推薦用の推薦書の様式で出願して欲しいと言われた。同じ学校推薦型でも指定校と公募制があるので、はっきりと明示して欲しい。分かりづらい。。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<経済的な問題>

- 金銭的な理由で進学を諦めたり、専門学校を選ぶ生徒が多くいる。
- 家庭の事情で本人の希望に沿わない進路選択をする生徒が増えてきているように感じる。
- 一部に生徒と家庭で情報共有に難があり、入学時納入金の工面などにおいて問題が生まれる場合がある。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

＜生徒の生活習慣・基礎学力・学業への態度・進路意識＞

- 生徒の意識不足、当事者意識の低さ、計画性の甘さ、楽観的過ぎる。
- 生徒の意識の差が大きいため、一斉指導が困難。
- 基礎学力の不足、進学先に対する情報収集力の低さ。
- 進路決定後の学習意欲の低下について指導の工夫が必要になる。
- 志望理由書などの書類作成を順調に進めることができない生徒が増えている。
- 教員が進行管理をしないと書類作成や発送が期限内に完了できない。
願書の記入でも間違える。募集要項が理解できない生徒が少なくない。
- コロナのため就職を先延ばしにしていると感じる。
- 生徒のコミュニケーション能力、及び、文章力の育成が課題。
- そもそも進学に力をいれていない。
(学力・経済的理由含めて、進学が難しい生徒が多い)
- 進学活動と毎日の学習活動とが意識の中でつながらない生徒が多くいる。
- 学校推薦を軽く考えている。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<保護者に関して>

- 保護者の中には、子どもの進路に関して無関心である方もいる。
- 卒業学年における生徒と保護者の意見の不一致、準備不足。
- 早く・楽に合格を決めたいという希望が、保護者、生徒の双方からあり、学校のルールを曲げて推薦等を要求されることがある。
- 本人・保護者ともに進学先を熟慮せず、就職率や合格のしやすさで選んでしまうこと。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<情報収集／情報提供>

- 各大学の入試情報の収集および新カリにおける共通テストの情報収集が大事。
- 学校全体への情報共有が難しい。
- 進路希望等の実態を把握しづらい。
- 生徒に対する必要事項や重要事項の伝達が難しい。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<生徒の安易な進路選択>

- 本人・保護者ともに進学先を熟慮せず、就職率や合格のしやすさで選んでしまうこと。
- コロナのため就職を先延ばしにしていると感じる。
- 安易に指定校推薦制度を使って進学しようとしている。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<校内の進路指導体制・内規>

- 学校推薦型選抜・総合型選抜における併願の扱い。
- 就職指導における企業との連絡上のミス防止対策が不十分。
- 多様なニーズに対応すること。
- 個別の対応が必要だと感じるが、すべての生徒に丁寧に個別に対応することが難しい。
- 推薦希望の生徒が多く、AO受験者、一般受験者へのサポートが十分にできていない。
- 受験対策について、本人・保護者の要望にどのように応じるか（体制等）。
- 将来のキャリアを踏まえた進路指導の難しさ。
- 社会通念等に自身のキャリアデザインを落とし込んでしまう傾向が強い。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<校内の進路指導体制・内規>

- 外国につながる生徒対応において、卒業後の進路を考えさせる意識付けが難しい。
- 生徒が進路を決定するための機会・きっかけが少ないと感じる。
- 職員相互の共通理解、進路指導・支援の温度差。
- 担任、学年ごとの温度差。

進学指導をするにあたって、日ごろ感じている問題点がありましたらお書きください。

<その他>

- 進路先とのミスマッチ。
- キャリアパスポートの活用方法に苦慮している。

コロナ禍において
進路指導で工夫したこと

66 コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

コロナ禍において、各学校で進路指導について、工夫したことを教えてください。

<オンライン化>

- 面談・集会・説明会・ガイダンス・情報提供等をオンラインで行った。
その結果、生徒は、資料等を机上看ながら説明を聴くことができ、よかった面もあった。
- 進路希望調査等のアンケートをWEBアンケートで行った。
- 業者による説明会の際に、なるべく映像を使うように業者に依頼した。
- 指定校一覧をWEB化して、密を避けるようにした。
- 説明会をオンデマンド形式で行った。何時でも、何回でも聴かせることができた。
- 動画配信による説明会を多く行った。
- オンラインでの事業所見学、企業見学会を実施した。

67 コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

コロナ禍において、各学校で進路指導について、工夫したことを教えてください。

<ICTの利用> Google Classroom や Meet の活用

- Classroom で生徒への連絡、情報伝達、進路通信の配信を行った。
- 進路説明会、講演会、ガイダンス、面接指導をMeet で実施した。
- 三者面談、オンライン模擬面接を Meet で行った。
- Classroomを活用した志望理由書のオンライン添削を行った。
- Classroomを活用し、欠席した生徒に対するフォローアップをおこなった。
- Classroomを利用し、個々の生徒に対して細やかな対応をしている。

68 コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

コロナ禍において、各学校で進路指導について、工夫したことを教えてください。

<ICT教育環境の充実>

- 全HR教室と特別教室に65インチ大型モニターを設置し、Chromebookを常設した。
- オンライン対応可能なスキルを持つ職員を配置した。
- ICT推進グループを新設し、予算を拡充し、専門職員を配置し、急速にICT化を推進した。
- 職員対象ICT推進研修会を実施した。

69 コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

コロナ禍において、各学校で進路指導について、工夫したことを教えてください。

<オンラインに対する対応>

- オンライン面接に対応できるように対象者はオンライン環境で面接練習を行なった。
- 生徒対象にWEB出願研修会を行い、一斉にWEB出願を行った。
- 受験の面接時において、オンライン面接を課せられた場合は、学校の教室で行った。
- オンライン学校説明会を上手く利用するように指導した。

70 コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

コロナ禍において、各学校で進路指導について、工夫したことを教えてください。

＜新型コロナウイルス感染対策＞

- ICTをフル活用し、対面指導を極力避けた。
- 説明会等を体育館での一斉指導から、各HR教室で実施し、密になるのを避けた。
- 密にならないよう、説明会を複数回行ったり、掲示資料を複数用意した。
- 一カ所に集まっていた講演から動画視聴へ変えた。
- 学校説明会などに参加する場合にマスクの着用を徹底した。
- 進路行事の組み替えを行い、人数の制限を行い、分散させた。
- 保護者向けの説明会では時間短縮のため、質問をその場で受けず、後日の電話対応。
- 生徒の不安が大きくなったので個別の面談時間を確保した。
- 模擬試験は校内ではなく、自宅で受験させた。

71 コロナ禍において、進路指導で工夫したこと

コロナ禍において、各学校で進路指導について、工夫したことを教えてください。

<その他>

- 入学実績のある医療系専門学校や保育短大に協力をお願いし、看護体験・保育体験の受け入れ先を確保した。

本調査で取り上げて
欲しいテーマ

73 本調査で取り上げて欲しいテーマ

本アンケートで取り上げて欲しい課題等がありましたらお書きください。

< 専願と併願可の対応 >

- 専願と併願における校内ルール。

< 推薦入試について >

- 学校推薦型(指定校推薦や公募推薦の専願)と他の併願可の学校の同時出願を認めているかどうか。
- 推薦基準(校内の)についての各校の状況を知りたいです。本校では総合型入試も1校に限って受験させていますが、他校の動向はいかがでしょうか。

74 本調査で取り上げて欲しいテーマ

本アンケートで取り上げて欲しい課題等がありましたらお書きください。

<保護者・生徒への対応方法>

- 進学に当たって、必要な費用のイメージが付かない保護者・生徒への対応等。

<外部業者>

- 進路指導(小論文や面接対策等)で外部業者の活用方法。

<総合型選抜>

- 総合型選抜の指導、手続等。

<進路選択の理由の把握状況>

- 生徒が専門学校や就職を選んだ理由を組織的に把握しているか。

アンケートへのご協力をありがとうございました。